

【ねがいましては】

平成12年5月25日

第125号

KYOWA SCHOOL

「ものは考えようで」

日光東照宮に「逆柱」(さかさばしら)というものがあるのだそうです。上下逆の柱が一本、わざと付けられているのです。・・・どうということかという、何事も完成してしまうと、そこから先、待っているのは、「崩壊」のみ、だから何か未完成のものを残しておくことで、まだ先はあるのだ・・・。残されている選択肢は、のぼり道のみ、したがって、いつも先へ歩いてゆこうとする気持ちを大事にしようということなのだそうです。心憎いやり方ですね。このことは、私たちの生活の中にも、しっかりとあてはめができると思うのです。

「完成」は、ある意味ではとても気持ちに満足がありますし、「人」としても高く評価されますし、いいことづくめかもしれません。でも、そこから先に、落とし穴があることを、気がつく人は少ないはず。長い年月の間、私たちの先輩たちは、たいしたものだなと感心します。

中学受験、高校受験、大学受験、今の社会が作り出した、子供たちへの段階別の判定システムは、この「完成」を錯覚させる落とし穴かもしれません。もし、これを読んでいらっしゃる方々が、自身がもう一度、高校受験をしたとします。今のシステムからすれば、早ければ、年が明けて、1月後半から2月にかけて、推薦合格制度があります。目標の高校が早く決まるわけですから、誰でもそちらが良いに違いありません。が、そこにちょっとした「危険」が隠れていることに、ほとんどの人は気がつかないと思います。

おそらく1月後半、進学先が決定すれば、その時点で今まで続けてきた勉強を、ストップさせると思うのです。いままでしてきたことは、高校に入るだけのためのことだったのか、そこに少し、「考え」を入れておかないと、「崩壊」が隠れ潜んでいるような気がします。

なぜ、それまでやってきた「勉強」をストップさせてしまうのか、・・・やりたくない「勉強」だったのだと思うのです。人の一生を長い眼で見た場合、高校に入るためだけの気持ちで、目の前にある「勉強」と付き合ってきたのだとしたら、その人にとって、その「勉強」は、とても影の薄い対象物なのかもしれません。

私は、ここにきている子供たちに、以上のような「勉強」というスタイルを伝えたくはありません。「人の一生」が終焉をむかえるまでつづく、「勉強」を伝えたいと思います。このような気持ちを、気づかせてくれたのは、この「逆柱」であり、今年春の受験生たち、そして、現在通われている生徒諸君だと思うのです。算数なら算数、理科なら理科、社会なら社会、そして、そろばんならそろばん、学年別・段階別に教科書はあるかもしれませんが、ここは、学年撤廃教室・・・算数がやがて数学や物理、化学などに発展してゆきます。英語なら、教科書からやがて、英語のアニメ、映画など、つながるものはいくらでもあります。そこから「楽しさ」が芽吹くのです。

ただいま計画中の勉強は、映画「メッセージ・イン・ア・ボトル」(ケビンコスナー主演)のDVDビデオの中にある、「ラブレター」をみんなで訳してみよう。と言うものです。恋愛物の映画ですので、女の子はとても胸がわくわくするのではないのでしょうか。映画の中で、なまの出演者たちの「英語による声」を聞きながら、「英語の字幕」を見る。

「逆柱」がいっぱいの教室でありたいと思います。みなさんの「お助けー」をお待ちいたしております。

なぜなら、わたしが「逆柱」なんです。

6月の予定

5月27日(土)・・・珠算検定試験3級以上・・・KYOWA SCHOOL・・・PM5:30～

6月 5日(月)・・・珠算検定試験・・・合格発表・・・KYOWA SCHOOL

* 5月29日(月)・・・AM11:00～PM4:00 中学生、福栄中数学テストのための勉強会、自由参加です。無料ですので、授業日数の1日に入れないでください。無料と言うことは、部外者もOK!。お友だち、おかあさんOK!です・・・栗田流(おまわりさん・やくざさん)で、グー!